


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立加悦谷高等学校 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都府立加悦谷高等学校 第2学年1組・2組アスリートスポーツコース 9名（男子5名・女子4名） 陸上競技部員 20名（男子9名、女子11名）
	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（ スポーツ探求 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ 陸上競技部活動 ） <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	支援学校の生徒とのスポーツ交流を通じて、障がい者理解を深め、他者への共感や思いやりの心を育てる。
5 取組内容	<p>1. 事前学習 令和元年 11 月 28 日(木) 11:40~12:30 於:211 教室 交流を行うにあたり、学校の様子や交流の留意点などの講義</p> <p>2. スポーツ交流</p> <p>(1) 第 1 回令和元年 12 月 6 日(金) 13:30~14:20 於:与謝の海支援学校 リトル (雨天のため屋内でドッジ-)、卓球、卓球バレーを3会場に分かれて実施した。</p> <p>(2) 第 2 回令和 2 年 1 月 10 日(金) 13:30~14:20 与謝の海支援学校の教員がバリエーションが多数のため、中止とした。</p> <p>3. 陸上競技部 合同練習</p> <p>(1) 第 1 回令和元年 11 月 11 日(月) 於:本校グラウンド 基本となる動き・走力や跳躍力などがアップする練習を、陸上部員が主体となって支援学校生徒に注意点を確認しながら実施した。</p> <p>(2) 第 2 回令和元年 12 月 9 日(月) 於:本校グラウンド 基本的な動きの後、走るメニューを多く実施した。</p>
	 <p style="text-align: center;">卓球 卓球バレー ドッジ 陸上競技部</p>

6主な成果	<p>1. スポーツ交流のアンケート結果</p> <table border="1" data-bbox="395 136 1434 824"> <tr> <td>①支援学校生徒との違いを認め合えたか</td> <td>アスリートコース 9名</td> <td>陸上競技部 20名</td> </tr> <tr> <td>ア よく認め合えた</td> <td>5名 (56%)</td> <td>3名 (15%)</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ認め合えた</td> <td>4名 (44%)</td> <td>17名 (85%)</td> </tr> <tr> <td>ウ あまり認め合えなかった</td> <td>0名 (0%)</td> <td>0名 (0%)</td> </tr> <tr> <td>エ 認め合えなかった</td> <td>0名 (0%)</td> <td>0名 (0%)</td> </tr> <tr> <td>②支援学校生徒との友情が育めたか</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ア よく育めた</td> <td>3名 (33%)</td> <td>2名 (10%)</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ育めた</td> <td>3名 (33%)</td> <td>13名 (65%)</td> </tr> <tr> <td>ウ あまり育めなかった</td> <td>3名 (33%)</td> <td>5名 (25%)</td> </tr> <tr> <td>エ 育めなかった</td> <td>0名 (0%)</td> <td>0名 (0%)</td> </tr> <tr> <td>③主体的な活動だったか</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ア 主体的だった</td> <td>5名 (56%)</td> <td>5名 (25%)</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ主体的だった</td> <td>4名 (44%)</td> <td>15名 (75%)</td> </tr> <tr> <td>ウ あまり主体的でなかった</td> <td>0名 (0%)</td> <td>0名 (0%)</td> </tr> <tr> <td>エ 主体的でなかった</td> <td>0名 (0%)</td> <td>0名 (0%)</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※ア+イを肯定的な回答とする</p> <p>2. スポーツ交流における成果 アンケート結果の肯定的な回答 (①29/29 (100%) ②21/29 (71%) ③29/29 (100%)) からわかるように、交流が深まったといえる。スポーツ交流を通じて、障がい者理解が深まり、他者を認め合い、思いやることを実感したと思われる。本校生徒は文化祭時の支援学校との交流会や、陸上部員による定期的な交流を実施していることから予想以上に垣根がなく、自然な会話が交わされていた。また、各種目で練習やコツをリードして教えるなど主体的に取り組む様子もみられた。日頃、競技スポーツに係る彼らにとって、スポーツの持つ力や素晴らしさを、別の角度から実感できたようである。</p> <p>3. 陸上競技部合同練習 夏休みの交流も含め、数回実施している恒例の合同練習であるが、年々、部員が主体的に支援学校生徒に練習を指導できるようになっている。また、支援学校の中には競技力の高い生徒もあり、レベルの高い交流になってきている。</p>	①支援学校生徒との違いを認め合えたか	アスリートコース 9名	陸上競技部 20名	ア よく認め合えた	5名 (56%)	3名 (15%)	イ まあまあ認め合えた	4名 (44%)	17名 (85%)	ウ あまり認め合えなかった	0名 (0%)	0名 (0%)	エ 認め合えなかった	0名 (0%)	0名 (0%)	②支援学校生徒との友情が育めたか			ア よく育めた	3名 (33%)	2名 (10%)	イ まあまあ育めた	3名 (33%)	13名 (65%)	ウ あまり育めなかった	3名 (33%)	5名 (25%)	エ 育めなかった	0名 (0%)	0名 (0%)	③主体的な活動だったか			ア 主体的だった	5名 (56%)	5名 (25%)	イ まあまあ主体的だった	4名 (44%)	15名 (75%)	ウ あまり主体的でなかった	0名 (0%)	0名 (0%)	エ 主体的でなかった	0名 (0%)	0名 (0%)
①支援学校生徒との違いを認め合えたか	アスリートコース 9名	陸上競技部 20名																																												
ア よく認め合えた	5名 (56%)	3名 (15%)																																												
イ まあまあ認め合えた	4名 (44%)	17名 (85%)																																												
ウ あまり認め合えなかった	0名 (0%)	0名 (0%)																																												
エ 認め合えなかった	0名 (0%)	0名 (0%)																																												
②支援学校生徒との友情が育めたか																																														
ア よく育めた	3名 (33%)	2名 (10%)																																												
イ まあまあ育めた	3名 (33%)	13名 (65%)																																												
ウ あまり育めなかった	3名 (33%)	5名 (25%)																																												
エ 育めなかった	0名 (0%)	0名 (0%)																																												
③主体的な活動だったか																																														
ア 主体的だった	5名 (56%)	5名 (25%)																																												
イ まあまあ主体的だった	4名 (44%)	15名 (75%)																																												
ウ あまり主体的でなかった	0名 (0%)	0名 (0%)																																												
エ 主体的でなかった	0名 (0%)	0名 (0%)																																												
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>1. 事前学習において配慮事項を支援学校の先生から本校生徒へ直接伝えていただき、イメージをふくらませた。</p> <p>2. ボールやラケット、器具を使用する際の安全配慮、声掛けに気を付けた。</p> <p>3. 取組時にねらいを明確にし、取組後に目的が果たせたかを確認するためにアンケートを実施した。</p>																																													
8主な課題等	<p>1. 与謝の海支援学校とは比較的距離が近い。交流、合同練習ともに、年間実施回数を数回ずつ増やしたい。また、アイスブレイクを取り入れるなどして、より友情を深めることのできる交流にしたい。</p> <p>2. 陸上競技部の取組は、メニュー作成から、実施、振り返りまで、今年度以上に部員に主体性をもたせたい。</p> <p>3. 昨年に引き続き「カインズ」による影響で中止されているため、実施時期を考えたい。</p>																																													
9来年度以降の実施予定	<p>1 今年度同様に与謝の海支援学校との交流を実施したい。</p> <p>2 年間実施回数を、数回増やしたい。</p>																																													